

潜在精巣 (陰辜)

雄犬（猫）の精巣の片方あるいは両方が、陰嚢まで下降しないで、鼠径部（鼠径部潜在精巣）または、腹腔内（腹腔内潜在精巣）に、停まってしまったものを潜在精巣（陰辜）といいます。

潜在精巣は、陰嚢内精巣（正常）に比較して、精巣の温度が体温に近い状態になるため、精子を作ることができません。

胎子の発育中、精巣は腎臓の近くで発生し、精巣と陰嚢は精巣導帯というヒモのような組織でつながっており、成長するにつれて、精巣は精巣導帯をたぐって脚の付け根の鼠径管という道を通り、陰嚢へ向かって下降していきます。精巣下降は、ホルモン、精巣導帯の委縮、腹圧などが相互に作用して起こります。精巣は出生後5～7日で鼠径管を通過し、約1か月で精巣下降は完了しますが、生後10～14週間は鼠径部で上下移動を繰り返します。右の精巣の方が左よりも停留することが多いです。両側性潜在精巣の場合は生殖能力がありませんが、片側の場合は生殖可能な場合が多いです。

犬の潜在精巣は将来腫瘍化する確率が正常に下降している精巣よりも10倍以上高いので、去勢手術がすすめられます。しかし、猫の精巣が腫瘍化することはほとんどありません。腹腔内潜在精巣の場合は、開腹手術が必要になり、また、腹腔内に停留した精巣は萎縮していて探すのが困難なことが多く、手術の難易度が高くなります。

潜在精巣は遺伝性疾患といわれています。複数の遺伝子が関与している（多因子遺伝子疾患）と考えられていますが、現時点では原因となる遺伝子は同定されていません。このことから、潜在精巣の動物は繁殖に使うべきではありません。

AHBにおける潜在精巣の発症率データによると、純血犬種=15.4%、（参考値：雑種犬=1.2%）、純血猫種=6.5%、（参考値：雑種猫=1.7%）で、純血種の発症率がかなり高くなっています。

当社のCA入荷基準では潜在精巣は入荷不可になっています。

これが本来の姿ですが、鼠径部でも、陰嚢まで下降することができるものは、入荷可としています。



☎03-5646-6894

FAX 03-5646-5822

AHB

URL <http://www.ahb.jpn.com>

契約ブリーダー様の母犬ワクチン巡回を行っております。

詳細は担当パイヤーへお問い合わせください。

〒135-0042 東京都江東区木場3-7-11

株式会社 AHB 診療部